

令和5年度第11回 感染症発生動向調査協議会  
議事要旨

1 日 時 令和6年2月21日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)

澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)

加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 副院長)

事 務 局 : 八代 英彦(感染症対策推進課 管理監)

可知 正行(感染症対策推進課 主任技師)

今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)

岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:澤田委員)

(1) 前月の感染症発生動向について

(2) 検討すべき課題について

(3) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数の増加について

- ・同感染症が昨年秋から全国的に流行しています。岐阜県での患者報告数は、現状で全国平均の約半数程度ですが、2月上旬には調査を開始した1999年以降で最も高い定点当たり2.55を記録しました。トレンドの面から考えると、岐阜県においても同感染症が流行していると思われるのですが、いかがなものでしょうか。

(委員から)

- ・定点調査が持つ性質から、全国平均や他の都道府県との間に数値の差が生じことは、避けられません。そのため、地域における流行の程度については、同一都道府県内の推移や過去の値から検討する方が良いと思います。岐阜県のトレンドからすると、現在、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行していると考えて良いのではないのでしょうか。